

令和 3 年 4 月 27 日
九州地方整備局

令和 3 年度 第 1 回 官民連携基盤整備推進調査費の配分を実施します

～民間と自治体が連携して取り組むインフラ施設の調査・検討を支援～

■国土交通省は、「官民連携基盤整備推進調査費」の令和 3 年度 第 1 回配分として、地方公共団体が実施する 16 件の調査（道路・河川・都市公園・市街地整備・港湾・空港等の事業化検討）の支援を決定しました。

■九州地方整備局管内では下記の 2 件への支援が決定されましたのでお知らせします。

(別添 1)

- ・ JR 古賀駅東口周辺地区官民連携まちづくりのための基盤整備検討調査

[実施主体：福岡県古賀市（別添 2）]

- ・ 高千穂鉄道跡地公園化に伴う観光拠点形成のための基盤整備検討調査

[実施主体：宮崎県高千穂町（別添 2）]

◆官民連携基盤整備推進調査費の制度概要（別添 3）

本事業は、民間の設備投資等と一体的に計画される地方公共団体のインフラ整備（道路・河川・都市公園・市街地整備・港湾・空港等）の事業化検討を支援するための制度です。

（配分先：地方公共団体、補助率：1／2）

【 その他 】

- ・ 募集情報や過去の実施事例等は下記をご覧ください。

国土交通省 HP「官民連携による地域活性化のための基盤整備推進支援事業」

(<http://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/kanminrenkei.html>)

<問い合わせ先>

九州地方整備局 企画部 企画課長補佐 藤木 敏治（内線：3155）
TEL：092-471-6331（代表） 092-476-3542（直通）

令和3年度 官民連携による地域活性化のための基盤整備推進支援事業 第1回実施事業一覧

別添1

調査名		実施主体	対象地域	概要	実施計画額（千円）	
					事業費	国費
1	J R古賀駅東口周辺地区官民連携まちづくりのための基盤整備検討調査	古賀市	福岡県古賀市	古賀駅東口周辺地区において、不足する都市機能を完備し、賑わいのある歩きたくなるまちなかと駅周辺への定住を促進するコンパクトなまちづくりを目指すため、民間事業者による居住施設や商業施設の開発等と合わせて、道路、駅前広場、公園等のデザイン・設計、配置検討及び整備・管理運営に係るPPP/PFI導入可能性検討等を行う。	33,000	16,500
2	高千穂鉄道跡地公園化に伴う観光拠点形成のための基盤整備検討調査	高千穂町	宮崎県高千穂町	高千穂峡等の観光資源を有する当地において、廃線となった高千穂鉄道のシンボルであった高千穂鉄橋を活用した新たな観光拠点を形成するため、民間事業者による観光案内所の設置や観光集客イベントの実施等と合わせて、公園、地域交流施設、道路等の整備に係る基本計画、基本設計及びPPP/PFI導入可能性検討を行う。	46,800	23,400
計2箇所					79,800	39,900

J R古賀駅東口周辺地区官民連携まちづくりのための基盤整備検討調査

別添2

地域の特徴等

○古賀市は古来より交通の要衝として栄え、これまで企業の工場が多数進出しており、古賀駅周辺にも工場が形成されてきた。しかしながら、近年では工場設備のダウンサイジング等により工場が縮小傾向にあり、遊休化した土地が目立つようになってきている。

○現況を課題として捉え、古賀市では「J R古賀駅東口周辺地区開発構想」を策定し、古賀の玄関口となる駅東周辺地区において、遊休化した土地を利活用することで、居心地が良く歩きたくなるまちなかと子育て世代を中心に多様な世代が住まう地域とするための検討を開始し、駅東周辺地区の価値や魅力の向上を目指している。

【調査箇所：福岡県古賀市^{こが}】

位置図



(1) 社会的背景・状況の変化等

- ・令和元年「J R古賀駅東口周辺地区開発構想」を策定し、東口駅前地区を重点地区と位置づけ
- ・令和元年 国土交通省が推進する「ウォークブル推進都市」に位置づけ
- ・令和元年11月、地元製造会社と古賀市でまちづくりの検討に関する協力協定を締結
- ・令和3年4月 市が「J R古賀駅東口周辺地区まちづくり基本計画（仮称）」を策定・公表予定

(2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定

- ・地元製造会社が開発事業者と新たな居住施設や商業施設を開発予定（令和8年度以降）
- ・地元製造会社が駅前立地の特性をいかし、駐車場と集客施設として「魅せる工場」を建設予定（令和8年度以降）
- ・鉄道・バス会社がバス路線の見直しを予定。（令和5年度～）
- ・PPP/PFI事業者による公園、駐車場、駐輪場の整備・管理運営

密接な
関連性

(3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）

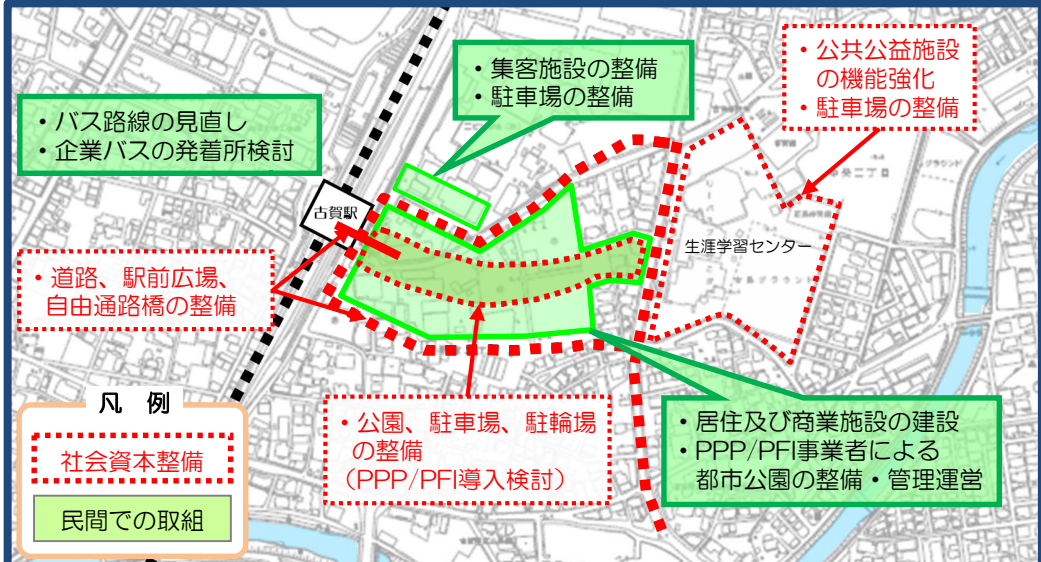
- ・不足する都市機能を完備し、賑わいのある歩きたくなるまちなかと駅周辺への定住を促進するコンパクトなまちづくりを目指した基盤整備が必要。

(4) 【調査内容】

- ①道路、駅前広場、自由通路橋、公園、駐車場、駐輪場等のデザイン・設計、居住エリアを含めた配置検討等
- ②公園、駐車場、駐輪場等の整備・管理運営に係るPPP/PFI導入可能性検討

(5) 民間の活動と一体的に整備する効果

- ・公園利用者数の増加、J R古賀駅乗車人員数の増加。
- ・高質的な空間整備による活発な民間投資の誘導、駅周辺の魅力向上および市内全域への波及効果。



高千穂鉄道跡地公園化に伴う観光拠点形成のための基盤整備検討調査

別添2

地域の特徴等

- 当町は、阿蘇の火山活動によって形成された高千穂峡等を有する観光地であり、年間140万人の観光客が訪れるものの、その多くは日帰りでの観光であることが課題となっている。
- 現在、当町および周辺自治体で形成する「阿蘇くじゅう高千穂デザイン会議」では、双方が連携し、エリア間での周遊や転泊による滞在型の観光地の形成を目指しており、当町においては、平成20年に廃線となった高千穂鉄道跡地にある高千穂鉄橋を利活用した公園整備により、新たな観光拠点となることが期待されている。

【調査箇所
みやざきけん たかちほちょう
宮崎県 高千穂町】

位置図

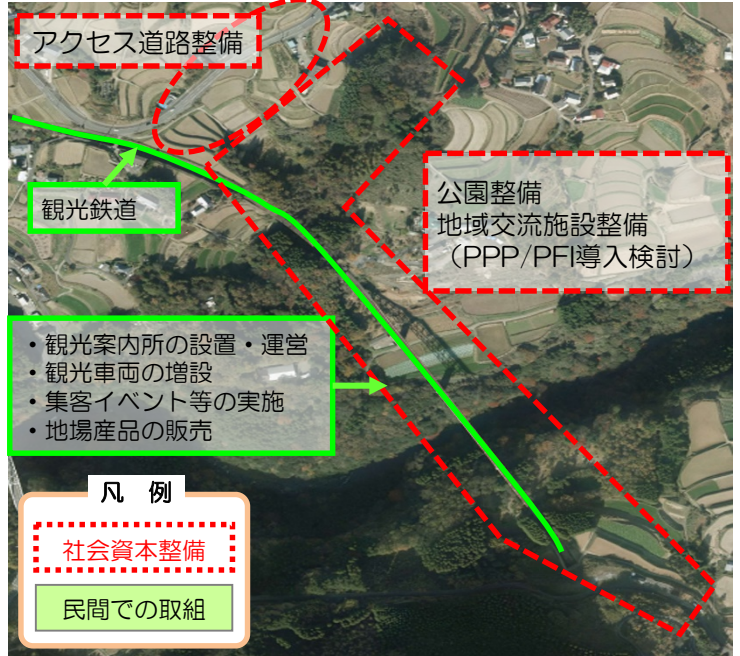


年間観光客数及び宿泊者数
左縦軸：観光客数（人）
右縦軸：宿泊者数（人）



(1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）

- ・平成29年に高千穂町が高千穂鉄橋利活用総合整備計画において「高千穂鉄橋」の歩廊化を決定
- ・令和2年に高千穂鉄道跡地公園化基本構想策定に向け、官民連携での検討会を開始
- ・令和3年2月に高千穂鉄道跡地公園化基本構想を策定、4月より町ホームページにて公表



(2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定

- ・（一社）高千穂町観光協会が観光案内所の設置・運営、観光情報発信・観光地周遊促進の実施（令和7年度～）
- ・（株）あまてらす鉄道が観光車両の増設や集客イベント等の実施による観光客受け入れ態勢の強化（令和7年度～）
- ・地元商店会、地元公民館等が地場産品、特産品の開発・販売（令和7年度～）
- ・PPP/PFI事業社が公園、地域交流施設等の整備・管理運営

密接な
関連性

(3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）

- ・鉄橋を利活用した新たな観光地整備を進めることにより、当該地区の魅力を向上させる拠点整備が必要。
- ・民間事業者等との活動と連携し、公園施設を核とした交流拠点の整備により、地域活性化を図る必要がある。

(4) 【調査内容】

- ・公園、地域交流施設、道路等の基本計画、基本設計（公園の機能・導入施設の配置・規模等の検討）
- ・公園、地域交流施設等の整備・管理運営に係るPPP/PFI導入可能性検討

(5) 民間の活動と一体的に整備する効果

- ・新たな観光地の整備による観光客入込数の増加、滞在型観光客の増加、周遊観光の促進等による地域経済の活性化

官民連携基盤整備推進調査費の制度概要

事業概要

- 各地域の個性や強みを活かした特色ある成長を図るためには、民間の投資効果が最大限に引き出されるよう、民間の設備投資等と一体的に基盤整備を実施することが重要である。
- 官民が連携して実施する民間投資誘発効果の高い基盤整備や広域的な地域戦略に資する事業について、民間の意思決定のタイミングに合わせ、機を逸することなく基盤整備の構想段階から事業実施段階への円滑かつ速やかな移行を図るため、地方公共団体が行う事業化検討に対して調査費補助を行う。

事業内容

【配分先】地方公共団体（都道府県・市町村等）

【補助率】1/2

【募集・配分スケジュール】年3回配分

区分	募集期間	配分時期
第1回	1月25日～2月19日	4月下旬
第2回	2月26日～4月16日	6月下旬
第3回	6月中旬～7月中旬	8月下旬

【支援内容】

民間事業活動と一体的に行うことにより、優れた効果の発現や効率性が期待できる国土交通省所管の基盤整備※の事業化に向けた検討経費を支援

＜調査内容＞

- ① 施設整備の内容に関する調査
(例) 基礎データ収集、需要予測、概略設計、整備効果検討等
 - ② ①で調査した施設の整備・運営手法に関する調査
(例) PPP/PFI手法の選定、官民の業務分担、VFM算定等
- ※ 道路、海岸、河川、港湾、都市公園、市街地整備、空港等の公共土木施設

事業フロー

